

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

- しっかりと生徒と向き合い、信頼に基づいた教育活動を展開することで、生徒の「意欲」を育て「力」をつける学校をめざす。
- 互いに信頼で結ばれた関係を作り上げ、その中で豊かな人間性が育成される学校をめざす。
  - 学力はもとより人間関係形成能力等も含めた総合的な「人間力」をつけることのできる学校をめざす。
  - 専門コース設置校の特色を生かして生徒の学習意欲を引き出し、多様な進路をサポートできる教育活動を継続していく。

## 2 中期的目標

- 進路実現をはかる学力の育成
  - 「わかる授業」をめざし、創意工夫の授業改革に取り組む。
    - ICT 機器・視聴覚機材を取り入れ、教材や指導法の工夫を図り、「わかる授業」「魅力ある授業」を創出する。
    - 相互の授業見学や研究授業、授業改善の研修を通じて積極的に授業改善を図る。
 ※学校教育自己診断「授業はわかりやすい」の項目の肯定率を60%とし、R4年度には67%以上にする。(H29年度61% H30年度56% R1年度64%)
  - 「確かな学力」の定着から進路実現できる学力の育成をはかる。
    - 学力生活実態調査を年2回実施し、学力の定着度を測定するとともに、学力向上プラン策定の資料とする。
    - 生徒が進路へ積極的に取り組むモチベーションを高める取組みをおこなう。
 ※平成29年度から導入した学力生活実態調査のA・Bゾーンの生徒数を、R4年度まで20人以上維持。  
 ※進路先に対する満足度アンケートをおこない、毎年肯定的回答90%以上を維持する。  
 ※中堅私大の合格者をR2年度は10人、R4年度までに20人以上にし維持する。(H29年度13人 H30年度11人 R1年度2人)
  - 多様な進路ニーズに応えるため専門コースや総合系の授業を充実させる。
    - 高大連携により大学での学びの先行実施を行い、人文ステップアップコースの進学に対する生徒のモチベーションアップを図る。
    - 専門コース(社会文化コミュニケーションコースや美術工芸表現コース)の特色を生かした取組みを行う。
- 豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成
  - 社会に通用するコミュニケーション力のある人材を育成する。
    - 教育相談体制の再構築とカウンセリングの手法を用いた対話主体の生徒支援をおこなう。
    - 開発的カウンセリングの視点をもって生徒の自己肯定感の育成をすすめる。
    - ユニバーサルデザインの授業等でのプレゼンテーション活動を通して生徒の自己発信力をたかめる。
 ※学校教育自己診断のアンケート(教員)「教育相談体制が整備」の肯定率をR4年度までに70%以上をめざす。(H29年度65% H30年度68% R1年度59%)
  - 規範意識と環境意識を育成する。
    - よりよく社会で生きるために必要な力の育成として、教員全体が協力して一人ひとりを大切に丁寧な生徒指導をめざす。
    - 学校が安心できる居場所づくりとなるようにSNS等の適切な使い方を教えるとともに複数回の面談を通して学校生活への定着をすすめる。
 ※生徒向け学校教育自己診断の「学校へ行くのが楽しい」の項目の肯定率をR2年度78%にし、R4年度には85%以上をめざす。(H29年度72% H30年度67% R1年度77%)  
 ※学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身にに応じてくれる」をR4年度までに75%以上(H29年度62% H30年度63% R1年度67%)  
 ※担任、進路指導担当による生徒面談複数回実施(100%)
  - 部活動の活性化を図る。
    - 継続的な入部促進と退部率の抑制により、帰属意識を高める。
    - 地域との交流を通して自己有用感の向上を促す。
 ※部活動の加入率をR4年度まで60%を維持し、退部率前年度比5%削減をめざす。(加入率H29年度64% H30年度67% R1年度57%)
  - ユネスコスクールの活動を基盤に、社会参画意識の育成を図る。
    - 社会貢献活動をとおして自尊感情・自己有用感の向上を図る。
    - 地元小中学校や地域社会と連携し、地域活動や異校種との交流を通じて社会に貢献する活動を推進する。
 ※小学校、中学校や地域の行事、学習活動等に参加する機会の設定(年間2回)
  - 共生推進教室の取組みを生かし、生徒のコミュニケーション能力等の育成を図る。
    - 「ともに学びともに育つ」の理念のもと、共生推進教室の生徒が他の生徒や地域の人々と交流する機会をより多く設定する。
 ※R4年度まで、共生推進の生徒の進路決定率100%を維持する。
- 専門コース制の確立とともに、学校行事や校内組織の改革を行う。
  - 全教職員がいずれかの専門コースに所属し、後継者を育成することでコースの継続性を確保する。
  - 各専門コースの進路選択状況や成果と課題を毎年検証し、必要に応じて課程や内容を修正する。
  - 日程変更した体育祭、文化祭の定着を図るとともに、内容の充実と効率化の両立を追求する。
  - 教職員数減に応じて、効率的な学校運営をめざし、分掌の再構成や大職員室化等を検討する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分] | 学校運営協議会からの意見 |
|----------------------------|--------------|
|                            |              |

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標                   | 今年度の重点目標  | 具体的な取組計画・内容   | 評価指標  | 自己評価 |
|-------------------------|---|---|---|------|
| 1<br>進路実現をはかる学力の育成      | <p>(1)「わかる授業」をめざし創意工夫の授業改革に取り組む<br/>ア「学びを自信に」つなげる授業改革<br/>イ 校種を超えた授業公開・研究授業</p> <p>(2)「確かな学力」の定着から進路実現できる学力の育成を図る<br/>ア 学力生活実態調査の導入実施<br/>イ 生徒が進路実現へ積極的に取り組むモチベーションを高める取り組み</p> <p>(3)多様な進路ニーズに応えるため専門コースや総合系の授業を充実させる<br/>ア 高大連携の活用で相互意識の向上<br/>イ 専門コースの内容のアップ</p> | <p>(1)<br/>ア・コース授業改善委員会を核に新学習指導要領の主旨を踏まえ、「わかる」から「自ら考える」ことで「学びを自信に」つなげる授業改善に向けた研修。<br/>イ・小中学校の公開授業や研究授業を複数教科で開催。</p> <p>(2)<br/>ア・学力生活実態調査(4月と10月実施)をツールにして学力定着度を測定・分析。進路目標実現に向けキャリアパスポート等で具体的な支援を実施。<br/>イ・進学講習の参加者への家庭学習の定着を支援。<br/>・長期休業中には「勉強マラソン」を行い、主体的学びへつながる自学自習の習慣を習得させる。<br/>・1年次進学準備クラス、2年次以降人文ステップアップコースにより進学希望の生徒のモチベーションアップを図る。<br/>・朝学習を週2回全学年で実施し、朝読書もとりいれ読書活動の活性化を図る。</p> <p>(3)<br/>ア 大阪成蹊大学、龍谷大学との高大連携等を活用した高大接続に繋がる大学等での学びの先行実施。<br/>イ 社会文化コミュニケーションコースでのフィールドワークの実施。異校種や地域の連携先と交流活動、防災教育等の実施。<br/>美術工芸表現コース国公立、嵯峨美術大学、大阪芸術大学、京都芸術大学等中堅美大の合格にむけ、制作スキルの向上と展示運営のスキルの習得。</p>    | <p>(1)<br/>ア・学校教育自己診断生徒「授業はわかりやすい」肯定率60%(R1年度56%)<br/>イ・異校種連携の他校からの研究授業への参加する機会の設定。研究協議1回。</p> <p>(2)<br/>ア・学力生活実態調査の上位者(A、B1ゾーン)20人維持(R1年度21人)、進路別満足度各肯定率90%維持(R1年度各88~100%)<br/>イ・受講者へ学校教育自己診断アンケートを実施し「家庭学習が習慣となった」60%以上。(今年度より)<br/>・「勉強マラソン」参加者へ同アンケートを実施し「勉強方法が身についた」60%以上。(今年度より)<br/>・中堅私大の推薦・AO合格者20人(R1年度2人)、看護医療系合格者を10人以上(R1年度10人)。<br/>・昼休み図書館開館の定着。毎月の利用者数10%増。(利用者名簿から)(今年度より)</p> <p>(3)<br/>ア・参加生徒へのアンケートで満足度60%以上。(今年度より)<br/>イ 美術工芸表現コースは生徒アンケートにより生徒の満足度や来場者からの作品や展示方法に関する肯定的回答70%をめざす。社会文化コミュニケーションコースのフィールドワークの参加者10%増。参加生徒対象アンケートの参加満足度60%以上。(今年度より)</p> |      |
| 2<br>豊かな人間性と社会で生き抜く力の育成 | <p>(1)社会に通用するコミュニケーション力のある人材の育成<br/>ア 教育相談体制の再構築<br/>イ コミュニケーション力育成<br/>ウ 自己発信力向上</p> <p>(2)規範意識と環境意識の育成<br/>ア 生徒指導の充実<br/>イ ガイダンス・クラス開きの充実による安心できる居場所づくり</p> <p>(3)部活動の活性化<br/>ア 部活動を通じた自己有用感の向上</p> <p>(4)社会への参画意識の育成</p> <p>(5)共生推進教室の取り組み</p>                   | <p>(1)<br/>ア 教育相談体制の再構築とカウンセリング的な手法を用いた、対話を中心とした生徒対応ができるように教職員の意識と行動の変容を促す。<br/>イ 開発的カウンセリングの視点からの生徒の自己肯定感を育成するためにSC、SSWおよび地域と連携した諸活動を通して双方向のコミュニケーション力の育成を図る。<br/>ウ エンパルメント授業等で生徒がプレゼンテーション等の体験活動を通して自己発信力の向上をめざす。</p> <p>(2)<br/>ア 遅刻多数の生徒に対し、5回ごとに改善指導を行い生活習慣の確立を促し遅刻者数の減少をめざす。<br/>イ 安心して学校生活を送るため SNS 等の適切な使い方を学び良好な人間関係を構築できるようにするとともに、きめ細かな面談の実施(2回以上/年間)。</p> <p>(3)<br/>ア 継続的な生徒の入部促進と多様な場面での活動を促す。帰属意識を高め自己有用感の向上を図る。</p> <p>(4)<br/>ア 地元小中学校や地域社会と連携し、社会に貢献する活動を推進する。</p> <p>(5)<br/>ア 共生推進生徒と普通科の生徒との協働活動の場面を行事などにおいて設定する。<br/>イ とりかい高等支援学校と連携して実習先、進路先を確保。就労への丁寧な意識づけと支援をおこなう。</p> | <p>(1)<br/>ア 学校教育自己診断のアンケート(教員)「教育相談体制が整備」の肯定率70%以上。<br/>イ 学校教育自己診断のアンケート(生徒)「学校に行くのが楽しい」の項目78%以上。<br/>ウ 同アンケート(生徒)「授業を通して自信がついた」の項目70%以上。(今年度より)</p> <p>(2)<br/>ア 遅刻数を前年度比5%減(2950)以下にする。(R1年度3104、H30年度2420)<br/>イ 学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身に応じてくれる」70%以上(R1年度67%)。担任及び進路指導担当による生徒面談(複数回)実施100%(今年度より)</p> <p>(3)<br/>ア 1年生入部率60%以上で退部率前年度比5%減としアンケート等でクラブ活動満足度70%(今年度より)</p> <p>(4)<br/>・小中学校及び地域自治体との連携の機会を設定。(年1回)</p> <p>(5)<br/>ア 共生推進教室設置校対象のアンケート等で第3学年の生徒の協働活動参加満足度70%。<br/>イ 十分な実習先の確保と3年生全員の進路実現100%。</p>   |      |
| 3<br>学校行事や校内組織の改革       | <p>ア 効率的なコース運営<br/>イ コースの検証<br/>ウ 日程変更した行事の定着<br/>エ 効率的な学校運営</p>  | <p>ア 全教職員が各コースに所属し、後継者を育成することでコースの改善とともに継続と定着を図る。<br/>イ コース1期生の進路選択状況や成果と課題について検証軸を定め、必要に応じて修正検討を始める。<br/>ウ 日程変更による体育祭と文化祭の実施について成果と課題を検討し、準備日程の定着をめざす。<br/>エ 「府立学校における働き方改革に係る取組みについて」に沿って分掌再編を行い業務の見直し、効率化を図る。</p>  | <p>ア コース授業改善委員会の検証のもと、ネット学習チームによる学習教材の集約を行いネット教材30以上確保。(今年度より)<br/>イ 確実な成果と課題の引継ぎを明文化。<br/>ウ 学校教育自己診断教職員の学校行事の工夫改善項目の肯定率75%(H30年度72% R1年度73%)<br/>エ 同分掌再編、連携、職場環境に関する項目の肯定率40%にする。(H30年度35% R1年度37%)</p>  |      |